

令和5年第421回信濃町議会定例会 12月会議 会議録(2日目)

(令和5年12月5日 午前9時45分)

●議長(佐藤武雄) おはようございます。ただいまの出席議員は全員であります。本日の会議を開きます。本日の議事日程は、お手元に配布のとおりであります。

日程第1、通告による一般質問を行います。質問時間は最大1時間をめどに、質問者、答弁者は進行にご協力をお願いいたします。また、答弁者及び質問者の都合により質問の順序を変更することがありますので、あらかじめご承知をおきください。なお、質問者と質問者との間に10分程度の休憩を取ることにいたします。

通告の1、酒井聡議員。

- 1、鈴木町政の1年間を振り返って
- 2、町政の今後の課題について

議席番号7番、酒井聡議員。

◆7番(酒井 聡) おはようございます。議席番号7番、酒井聡です。12月会議ということで、いよいよ慌ただしい冬のシーズン、本格的な雪のシーズンを向かえようかというところであります。先月25日の早朝まとまった里雪も見られまして、ただ、一晩で20、30降るのが当たり前の信濃町にとりまして、随分と広範囲の停電ですとか、交通への影響ですとかいろいろ影響がでたのかなと思っております。土曜日ということで、通学の子供たちには影響がなかったというのが幸いですが、シーズンはこれから始まりますので、各所対応をお願いしたいということをまず申し上げて質問に入ります。今回の一般質問は通告に沿いまして鈴木町政の1年間を振り返ってとして、この1年間、町の内外の状況さまざまありましたが、その1年を振り返りつつ、転じて町政の今後の課題についてとして、近くはこの冬から、また来年度にかけて、昨今、社会情勢から予想される今の信濃町の現状と課題、また最終的な目標などについて伺っていききたいと思います。まず、昨年11月に執行されました信濃町町長選挙の結果を受けまして、鈴木町長にありましては初当選を果たされ、ちょうど12月会議の直前に就任されたということになります。あれから1年経過したところです。この間、社会情勢を見ますと進展しないウクライナ情勢ですとか、昨今はそれに加えて、パレスチナ情勢という世界経済に対する不安感、また停滞も見られますが、国内におきましては5月8日付ですが、数年間にわたったいわゆるコロナ禍からの回復、その第一歩が打たれたと。夏を見ますと、異常気象なのか気候変動なのか軽々には言えないところではあります。夏から秋にかけてかなりの高温と少雨、野尻湖もだいぶ干上がったのを私も体験しましたが、よくも悪くも、そうした社会情勢に大きな変化を見られた1年ということ振り返って言えるのではないかと考えています。そうした世界的には混乱期ともいえ、町内と国内にとりましては、いわゆる回復期ともいえる複雑な1年の最中に鈴木町長は就任をされまして、

令和5年第421回信濃町議会定例会12月会議 会議録(2日目)

信濃町の町政の舵取りを1年間、ここまで担ってこられました、まず質問の冒頭といたしまして、この1年間を町長ご自身振り返っていただいて、ご自身が行ってこられた町政運営について町長ご自身の評価などを伺いたいと思います。

●議長（佐藤武雄） 鈴木町長。

■町長（鈴木文雄） 改めまして、おはようございます。それでは酒井議員からいただきましたご質問にお答えいたします。昨年、就任させていただきました際に申し上げました、施策の基本方針といたしましては、「住んでよかった信濃町を次の世代へ」という目標を確認させていただきました。先人たちが残した有形無形の遺産をしっかりと受け止めまして、それに磨きをかけた上で次の世代に引き継いでいく、そのような考え方でございます。具体的には、以下の4点を当面の目標といたしました。第1にはコロナ禍からの再生でございます。新型コロナウイルスの感染拡大により大きなダメージを受けた地域産業、そしてまた家庭生活の再生を図るため、国・県の支援策に町独自の上乘せを検討したいという内容でございました。以下、子育て支援と高齢者福祉の充実、3点目といたしまして、地域固有の持ち味を生かす施策の充実、これは観光面のことを少し言っております。4点目といたしまして、医療提供体制の強化、これは信越病院の建て替えに関連したものでございますが、以上の4点を目標に掲げまして、その実現に向けて取り組んだところでございます。1年を経過した現時点においては、いずれの目標についても及第点には達しておりませんが、プレミアム商品券の発行、学校給食費、高校生の通学定期券への補助などの面においては、一定の成果があったのではないかと考えているところでございます。また、信越病院の建て替え工事につきましては、ロシアによるウクライナ侵攻などに起因いたします、世界的な物価高の中で、諸資材および人件費などが想定以上に高騰するという難しい状況ではございましたが、先月中旬には施工業者も決定いたしました。今後は、関連する工事との調整を図りながら、当初の予定通り進捗させるよう取り組んでまいりますので、ご理解のほどをよろしくお願いいたします。以上、簡単ではございますが、1年の振り返っての本当に大きくくりでの、現時点での私が考えていることについて述べさせていただきました。

●議長（佐藤武雄） 酒井議員。

◆7番（酒井 聡） 今ほど、ご自身の評価としては、4点に対する評価ということで伺いましたけれども、そのうち何点かこの後の質問で伺ってまいります。私から、失礼ながら、見させていただいた感覚としまして、行動力を発揮された1年ではなかったかなと思っております、姉妹都市とのお付き合いで行き来もされましたし、韓国のほうにも行かれましたし、ずいぶんと体を張った外交をされたなと思っております。また、先ほどの若者会議ですか、そういったこともやられたようで、オリジナリティというものがやはり求められるのかなと思っております、今の答弁の中にはそのことが触れられ

令和5年第421回信濃町議会定例会12月会議 会議録(2日目)

ておりませんでした。若者会議ということも企画をされたということで、これが何か成果はございましたか、伺います。

●議長（佐藤武雄） 鈴木町長。

■町長（鈴木文雄） 若者会議という名を打って、町民の皆さんから広くご意見をいただきたいというつもりで、7月に第1回、そして10月の下旬と11月にそれぞれ第2回、第3回ということで開催をさせていただきました。集まっていただきました町民の方々は全部で70名ほどになるのかなと思いますが、年齢層を見ますと、10代の高校生から、75歳の方が一番最高齢だったのではないかなと思いますが、若さには年齢がないということで、それぞれ自分は若いのだということで、本当に若さみなぎる意見をたくさん頂戴したところでございます。現在、長期振興計画の後期分をこれからまとめていく段階でありますので、いただきました意見、これを庁内の全職員が参加するワーキンググループのほうにも、さらに下ろして、そして具体的な施策につなげていくとそういう段取りであります。私は就任してから1年ありますが、まずは町民の皆さんの意見を広くお聞きして、その中に輝くダイヤモンドの原石があるのではないかと考えておりますので、今後ともこういう機会をできるだけ多く作っていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

●議長（佐藤武雄） 酒井議員。

◆7番（酒井 聡） よく分かりました。先ほど町長の方からも触れられました3点のうち、コロナからの脱却といいますか、そういったところでちょっと質問に入りたいと思います。その1年振り返った時に、国内においてまた町にとっても大きく変わった事案の1つとして、数年にわたったコロナ禍、これが本年5月8日をもって感染症の扱いが変わりまして、長らく停滞を強いられてきました国内経済に一定の回復基調が見られているのではないかと今現在感じているところです。これはワクチン接種の普及、それと治療法の確立で重篤化の予防にある程度が目処が立ったことなど、いわゆる感染症法における指定で第5類への移行で、これまで国内外問わずちょっとはばかれていた自由な移動に対する緩和措置、あと、人の集まりの緩和措置ですとか、そういったことが図られたところです。またそれを迎える観光地側の目線としては、これはまた受け入れ体制の復活というのでも求められているわけですが、報道にありますように全国的な現状として外国人観光客の皆さんの急激な増加、言い方を変えますと、コロナ禍前の状況を一部の観光地では超えているという報道もありましたが、当町の場合、グリーンシーズンの観光の柱であります合宿、観光イベントによる集客、そこに関連した町内経済に対する好影響、これはコロナ禍の前と比較してどうであるのか、コロナ禍よりはかなり良くなっていることは承知しております。花火大会も大盛況だったと見ておりますが、そういった町内経済に対する好影響の有無について伺っていきたいと思います。

令和5年第421回信濃町議会定例会 12月会議 会議録(2日目)

●議長（佐藤武雄） 鈴木町長。

■町長（鈴木文雄） コロナ禍の中で停滞していた地元の産業が5月8日以降、どういふふうになったかということでございますが、議員ご指摘のとおり、外出に対するハードルも下がりましたので、旅行者の人数も元に戻りつつあると感じております。また、イベントや広告宣伝につきましても、コロナ禍の前と同様の方法で実施してきたところでございます。5月から9月までの観光客の入り込み状況を見ますと、個別の拠点ごとに申し上げますと、黒姫高原が140.8パーセント、野尻湖はちょっと低いのですが96.9パーセント、タングラムこれは、ゴルフあるいは野尻湖テラスというのはリフトもございますが、これらは196.1パーセント、ナウマンゾウ博物館が107.5パーセント、童話館は127.6パーセント、一茶記念館は117.1パーセントというようなことでございまして、総じて客数が増加してございます。また、道の駅しなのにつきましてもはレジの通過者は前年比95.7パーセントで若干余低めだったのですが、売店の売り上げは106.9パーセント、食堂は113.7パーセント、それから直売場につきましてもは104.4パーセントとなっております。全国旅行支援などの対策も追い風となったのではないかと感じているところでございます。また、夏のスポーツ合宿に関しましては、これは私どもで補助金といいますか、商品券をお配りした、その実績で申し上げますと、前年比21団体がプラス、延べ人数で申し上げますと2176人が増加、率で申し上げますと、168.8パーセントとなっております。イベントでは黒姫高原クラフト祭り、これは雨模様で、ちょっと天候には恵まれませんでしたけれども、3800人ほどの来客があったということでございます。今後も観光客の入り込み数が回復し、さらにはコロナ禍の前のような数に達することができるよう、関係団体と連携を深めながら対応したいと考えております。ご協力のほどをどうぞよろしくお願いいたします。

●議長（佐藤武雄） 酒井議員。

◆7番（酒井 聡） 今のお話では、ほぼ前年度を超えている、コロナ禍からは脱却の状態にあるのかなと数字の上では見て取れます。全国的な話ではあるのですが心配されるのはオーバーツーリズムということで、2年3年、いってみれば観光地としての規模を縮小して、いわばホテルの従業員ですとかそういった皆さんが整わない状態で、コロナ禍前のお客さんがどっと押し寄せて来る、断らざるを得ないというようなオーバーツーリズムという現象が起きているという話も聞きましたが、町内においてはそういった混乱は起きていないと見てよろしいでしょうか。

●議長（佐藤武雄） 鈴木町長。

■町長（鈴木文雄） 全国津々浦々、オーバーツーリズムに関するいろいろな報道がなされておりますが、信濃町におきましてはそのようなことには至っていないと考えており

令和5年第421回信濃町議会定例会 12月会議 会議録(2日目)

ます。卑近な例で言いますと、令和4年度の信濃町に訪れた観光客数の統計が75万人というような数字があります。コロナ禍前は95万人ということでありましたので、コロナ禍前が信濃町が用する受け入れのキャパシティと言いますか量であるとすれば、その75万人の令和4年度を上回る状況でございます。90万人くらいに達しているのかなということを想定するわけですが、受け入れの容量をオーバーするような状況には現時点では至っていないと考えております。ただコロナ禍をきっかけに、休業あるいは廃業ということを探られている事業者の方もおられるとお聞きしておりますので、私どもとすれば将来的な経営、それぞれの事業者の皆さんのご意向をお伺いする中で、適正に私どものキャパとして認知し、そしてまた、情報提供していくというようなことが必要なのかなとも考えております。以上です。

●議長(佐藤武雄) 酒井議員。

◆7番(酒井 聡) 当町の観光の現状はこれからが本番です。ウィンターシーズンです。ですので、今事業者の方の現状といいますか、そういったお話もありましたが、これからが本番でありますので、これからオーバーツーリズムだということになると信濃町としてはあまりよろしくないと思います。ぬかりのないようお願いをできればなと思います。冬ということで次の質問にその流れでいきますが、今年の冬ですが、電気化石燃料価格の高騰に対する施策についていろいろ言ったかと思いますが、その評価について伺いたいと思っております。今年の状況を振り返りますと、コロナ禍による経済の縮小、それと長引くウクライナ情勢、石油の輸出国による減産継続、アメリカ始めとした諸外国の金利の違いから円とドルとのバランスが30年ぶりの円安レベルとなったと、いろいろな要因から輸入資源、特に原油、それと発電に欠かせない液化天然ガスの市場価格の高騰という、これまでにないような悪循環に結びついたのが今年の冬にかけてであります。当町など冬の気候が厳しい地域の生活というのは、化石燃料に依存というような化石燃料なしでは、今、生活もままならない状態でありまして、一般家庭での暖房用給湯用の燃料、除雪用の燃料は、それを使用するのは不可欠なことから、灯油をはじめとする化石燃料の価格高騰に対する町長の見解というのを今年の12月会議で伺ったところではありますが、その時点では、これから起きる事態にどう乗り切るかという見解を伺ったのですが、今回の質問では、今年の冬の電気価格燃料の価格の高騰に対する施策の評価、先ほど、物価高対策というような柱の中にもあったかと思うのですが、その施策の評価について、町長ご自身の評価をお伺いしたいと思います。

●議長(佐藤武雄) 鈴木町長。

■町長(鈴木文雄) 昨シーズンの冬の価格高騰対策といたしましては、暖房機や除雪機などに係る電気代、燃料代の負担増に伴う影響を緩和するため、事業者への定額の支援金給付を実施いたしました。具体的には、法人対しては10万円、個人事業主に対しては

令和5年第421回信濃町議会定例会12月会議 会議録(2日目)

5万円、延べ293事業所に対して給付を行いました。事業規模によりましては、十分ではなかった事業者もあろうかと思いますが、多くの事業者喜んでいただけたものと考えております。また福祉施策といたしましては、低所得世帯の生活支援を目的といたしまして、給付金に加え、町内介護保険事業者及び障がい者サービス事業所に対する運営補助を実施いたしました。いずれも使い勝手の良い現金給付でございましたので、燃料高騰等への経費にあせていただけたものと考えております。以上です。

●議長（佐藤武雄） 酒井議員。

◆7番（酒井 聡） 後ほど、この冬の対策について伺いますが、いずれにせよ去年行ったことがベースになろうかと思っておりますが、おおむね、打てるだけのことは打つたと、何とか冬は乗り切れたと、そういうような感情を町長ご自身は持っておられるか見解を伺いたいと思います。

●議長（佐藤武雄） 鈴木町長。

■町長（鈴木文雄） 先ほども申し上げましたとおり、十分というレベルには達していないとは思いますが、町としてできることは精一杯やらせていただいたと、そう考えております。

●議長（佐藤武雄） 酒井議員。

◆7番（酒井 聡） 後ほど、今年の冬に対する対策については伺います。そういった手応えであったという感じで受け止めたいと思います。次にこの1年間を振り返りましたときに、保育人材の不足というのが表面化しまして、やむを得ず休園の措置に至った野尻保育所の現状と来年度の見込みについて伺います。保育園全体としての人員確保についてという大きな話はまた後ほど伺いまして、今年度4月1日以降、野尻保育所の休園といった、いわゆる働き不足による行政サービスの停滞ともいえる事態が一部で見られてしまいました。当町として大きなニュースとなり、新聞報道もあり全県的に大きな一石を投じたというような事態になったと感じております。昨年末から休園に至るまでの経緯につきましては、全員協議会をはじめいろいろな場で幾度も説明をいただきましたし、人手不足、働き手不足に対するジェネリック、全国的などうか、一般的な問題に対する考えと、対策については後ほど伺いますが、あくまで個別の案件の1つとしての目線で伺います。保育所の現状と、来年度の見込みについて伺いたいと思います。これは教育長にお願いします。

●議長（佐藤武雄） 佐藤教育長。

令和5年第421回信濃町議会定例会12月会議 会議録(2日目)

■教育長（佐藤尚登） 保育園に関するご質問にお答えします。今、議員ご指摘のとおり、今年度、令和5年度は産育休を取得する、取得予定の保育士が複数人いることが分かったため、入園継続児童と新たな入園希望児童の数をもとに、4園体制を維持するために必要な保育士の確保を目指しましたが、結果的に確保するには至りませんでした。また、それに加えて、年々未満児保育のニーズが増えている状況下で、野尻保育園の未満児の定員が6名であるのに対して、富士里保育園では12名を受け入れることが可能でしたので、昨年その時点で入園を希望する全児童を受け入れることを優先し、やむを得ず3園体制としたところ です。令和6年度は、従前どおり4園体制で行うこととして、現在、準備を進めているところです。ただ、11月上旬に行った入園説明会においては、利用希望園児数が定員よりも多かった場合は、利用調整を行う可能性があるということをご説明いたしました。それで11月末で、入園申込みを締め切ったわけですが、現状予想を超える未満児の申込みがあり、今後、書類審査等を行って入園決定を行うということになります。なお、現時点において、担任保育士の確保はできる見込みでありますが、時間外の保育を担当していただける会計年度任用職員の方、あるいは給食調理員については十分に確保できているという状況ではありませんので、引き続きそういった方々の募集を続けて、安心して預けていただける保育園の運営に向けて最善を尽くす所存であります。以上です。

●議長（佐藤武雄） 酒井議員。

◆7番（酒井 聡） 今の教育長の答弁では、令和6年では4園体制が元通り、元通りと言いますか戻るといってお話であります。何よりだと思えます。それに関わります人員の確保ですとか、大きな問題がこれから山積してくると思えます。それはまた後ほど伺いたいと思えます。続きまして、あくまでも全国的な昨今の問題から取り上げた質問であります。私もこの議員という生活を送っている中で、有害鳥獣に対する対策といった質問を数多くさせていただいた経緯があります。その中で、今年、全国的に有害鳥獣被害、特に熊による人身事故、これが非常に表面化、深刻化しました。東北地方、特に秋田県北部を中心に熊の出没情報が後を絶ちません。山に立ち入った登山客ですとか山菜採りの方ですとか、そういった方が被害に遭われたほか、普通に街の中心部にあっても熊に襲われるという、そういった人身事故が多発しまして、全国的に北海道も含めて200人ほど被害に遭われて何名か亡くなっておられるわけです。長野県にありましても、死亡事故1件含む人身事故、テレビで拝見し非常にショッキングだったのですが、果樹園のぶどうをむさぼる熊の姿というのを見まして、農業被害も報道されているところがあります。当町にありましても防災無線で、出没の度に放送をかけて注意喚起を行っているのは例年並みにあったかと思えますが、こうして全国の熊の問題は、決して他人事では済まされない問題と言えます。朝方ですか、ニュースを見ていると、真冬の北海道でまだ熊が街中闊歩しているというようなものが報道されていました。ここで当町の有害鳥獣被害、特に今回、熊に焦点を絞りまして、熊に関する被害の現状を伺いたいと思

います。

●議長（佐藤武雄） 鈴木町長。

■町長（鈴木文雄） 熊の状況でございますが、熊は7月上旬から9月上旬にかけて出没するケースが多くあります。当町におきましては、幸い人身被害はございませんでしたが、トウモロコシを中心といたしました農作物への被害に関する報告が多数寄せられました。町に対して目撃情報あるいは被害の状況につきましての通報数でございますが、45件となっております。この他に、町において把握できていないものもあるかと思っておりますので、実際には、さらに多くの出没数となっていたのではないかと考えております。被害状況を正確に把握することは、事故を未然に防止する意味においても非常に重要なポイントかと考えておりますので、住民の皆さんにはできるだけきめ細かに通報いただくようお願いしてまいりたいと考えております。また、今年度は目撃情報や被害情報をもとに現地確認を行う中で、人身被害の防止を最優先するという観点から、県町猟友会が連携いたしまして、8か所に檻を設置し、5匹の熊を捕獲したところでございます。なお参考までに申し上げますと、近隣の市町村ですけれども、飯綱では今年15頭を捕獲したということですので、隣の長野市もたくさん出ているのではないかとお聞きしたところ、長野市は飯綱山、戸隠方面での目撃情報は少なく、若穂方面での目撃情報が非常に増えていて、住民の皆さんも非常に警戒をしておられる、そんな情報もお聞きしたところでございます。以上です。

●議長（佐藤武雄） 酒井議員。

◆7番（酒井 聡） 実際に役割に対しての通報が45件というのを私、非常に実は心配しているところでありまして、私の持論なのですが、目撃と出没は基本的に違うものだなと思っていまして、山の中、例えば人間が登山ですとか山の中に入って熊と出くわすのは目撃であって、里に出てくるのは出没なわけです。どちらかというとならぬ方が問題で、そういったところの洗い直しも必要だと思うのですが、住民の皆さんが慣れっ子になっているのではないかと。熊がその里に降りてきてももういちいち通報しなくなっているのではないかと。そういう心配をしているわけです。被害状況というのは、捕獲の計画にもかかわることですので、こういう出没の件数とか、そういった駆除しなければならぬ頭数というのは、こういったデータの積み重ねから計算していくものだと思っております。もう少し熊の出没に関して、通報を積極的にお願する、45件というのはあまりにも少ないように思うのですが、現場の町長の見解を伺いたいと思います。

●議長（佐藤武雄） 鈴木町長。

■町長（鈴木文雄） 45件という通報があったということなのですが、考えてみま

令和5年第421回信濃町議会定例会 12月会議 会議録(2日目)

すと熊1頭でも、動くわけですから、上で見た人もいれば下で見た人もいるというようなことがあります、通報自体がどの程度の信頼度を持ってそれに向き合えば良いのか、ひとつあるのですけれども、いろいろな資料をまとめまして、それぞれの年ごとの傾向であるとか範囲などを町民の皆さんにお知らせするようなくらいまで、データの実績が出されれば、そういうことも可能になるのかなと思っております。という意味も含めまして、目撃情報やさまざまな情報を役場の方にお知らせいただいて、それを次の段階で取りまとめ整理するという、そういう作業に繋げていただく、繋げられるようにご協力をお願いしたいと思っております。

●議長（佐藤武雄） 酒井議員。

◆7番（酒井 聡） 先ほども申し上げましたが、決して他人事ではない、東北地方だけで起きている話ではないと思っております。最悪、人身事故が起きうるものでありますので、徹底をして注意喚起をしていただければなと思えます。ここまでですが、昨年12月の町長就任からこれまでを振り返ってきたことを伺ってまいりましたが、ここから、この冬から新年度以降に懸念されている諸課題に対する町長また町側の考えなど伺っていきたく思います。まず第一に、先ほど電気価格、燃料価格の話をしていただきましたが、この冬も電気、燃料価格の高騰が懸念されております。先ほど、今年の冬、どう乗り切ったかということをお伺いしたのですが、この冬はどうか。相変わらず石油の輸出国減産の継続、また円安レベルの継続、今度はパレスチナ、あれは産油国の近くです。そういったパレスチナの情勢といった新たな懸念材料が加わっておりまして、昨年以上のエネルギーの価格の高騰というのが心配を通り越して危惧されていると思えます。国の補助政策につきましては、主にガソリンを中心とした補助が行われてきました。トリガー条項の関係もそうですが、話し合われているのは主にガソリンを中心とした話であります。当町を始めとしまして、町内、多くの市町村の住民の暮らしの根底にあるのは、先ほども申し上げました、灯油を始めとする暖を取るためのエネルギーです。決してガソリンで移動するためのものではなく、暖を取るためのエネルギーが必要なのです。灯油の価格はそういった県民はじめ私ども町民も、最も関心が集まるところと言えます。国が行うガソリンを中心とした補助のほか、町独自に灯油をはじめとしたエネルギー価格の対策、昨年以上のものが打てるのかどうか、伺いたいと思っております。

●議長（佐藤武雄） 鈴木町長。

■町長（鈴木文雄） 電気燃料価格高騰策につきましては、現在、国の補正予算に継承されております物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金、ちょっと長い名前ですが、これにより対応してまいりたいと考えております。現時点では、正確な金額、事業の実施可能期間等が示されておられませんので、内容を検討中ですが、国からの内示を受け速やかに対応してまいりたいと考えております。また、福祉施策といたし

令和5年第421回信濃町議会定例会12月会議 会議録(2日目)

ましては、国また県が非課税世帯等を対象に支給事業を行っておりまして、さらに国が追加の給付金制度を準備しているとは聞いておりますので、具体的な内容が定まったところで町としての対応を検討してまいりたいと考えております。以上です。

●議長(佐藤武雄) 酒井議員。

◆7番(酒井 聡) 信濃町は、どうしてもこの灯油に依存してこの冬を乗り切ると。今現在生活されている皆さんのお宅というもの、築何年とかいろいろあるでしょうが、だいたい灯油の値段がリッター90円とか100円未満とか、そういった時代に今の設備を用意された皆さんがほとんどだと思います。古いお宅ですと、もっと灯油の値段が安いときに設備をこさえて、今、まだ暖房をとっているとか、そういったところも多いと思います。そこに、灯油の値段がリッター115円とか120円近くというところだと大打撃なわけです。それを私は心配しているので、特に灯油、暖房というのは命にかかりますので、町として独自に打てるものがあればなおさらということであるのです。そのあたり、どうですか町長。

●議長(佐藤武雄) 鈴木町長。

■町長(鈴木文雄) 石油に関しましても、他の燃料につきましても、電気代も含めてすべてそうかと思いますが、町として何ができるか、国の事業内容も精査させていただく中で、上乘せが必要であれば、検討させていただきたいと思っております。

●議長(佐藤武雄) 酒井議員。

◆7番(酒井 聡) 多くの皆さんが期待している政策だろうと思っておりますので、お願いしたいと思います。次に新年度の問題について触れていきます。2024年問題という言葉があります。働き手不足が懸念されているということではありますが、これは内容としましては、2019年の4月、中小企業は2020年なのですが、働き方改革の一環として労働基準法が改正されました。時間外労働の上限が法律に規定されたわけなのですが、ある業種に関しましては、猶予期間が設けられておりまして、来年4月1日、つまり令和6年度の新年度以降、これが5年間の猶予規定が設定されておりました建設、運輸、医療の各分野に対して例外的に認められていました時間外労働の条件規制の猶予が終了することから、おそらく働き手不足にも繋がるであろうという、そういった諸問題をこの2024年問題という言葉で指しております。近年の報道にもありますとおり、物流や公共交通機関、それと公共工事を担う建設業界、この問題とは別に慢性的な働き手不足が発生しておりますが、それに加えて、この問題による行政サービスの停滞というものも懸念されているというところでありまして、当町の実情等を照らし合わせますと、公共工事の労務費の上昇、それと工期期間のやりくり、公共交通機関は事業者へ委託し

令和5年第421回信濃町議会定例会 12月会議 会議録(2日目)

ておりますが、事業者の意向がどうであるのか、そういったところが大きく気になるところであります。ことは新年度予算の組み立て、また新年度以降、特に病院ですとか、し尿処理施設をはじめとする大型公共工事の発注、そういったところにも関わるものと思われま。今、現在この町としてこの2024年問題の対応策、またどのように捉えているのか伺いたいと思います。

●議長(佐藤武雄) 鈴木町長。

■町長(鈴木文雄) 2024年問題ということで、お答えさせていただきます。はじめに公共交通機関における2024年問題につきましては、すでに新聞報道等にもございましたとおり、ドライバー不足が深刻な状況となっております、アルピコ交通は高速バスの長野松本線を令和6年3月に廃止すると発表しております。また、近隣では長電バスの路線バスでございます牟礼線、これは長野市と飯綱を結んでいるラインでございますが、すでに減便となっております。また、中野木島線、これは中野市と飯山市を結ぶ路線でございますが、こちらにつきましても減便の予定と聞いているところでございます。現在のところ、事業者から、当町における減便に関するようなお話は伺っておりませんが、ドライバーの高齢化、新規採用が進んでいないというような状況は他の地域と変わらないとお聞きしております。また時間外労働時間の上限が年に960時間と設定されておりますので、ドライバーの拘束時間が制限されますことから、路線バスの運行便数の調整についても検討を進めているところでございます。デマンドタクシーにつきましては、予約システムの更新に合わせて、運行形態を定時運行からフルデマンド化へと見直しを行う予定でございますが、現状と同じ運行台数を確保できる見直しとなっております。今後も、事業者と情報共有を図りながら公共交通が効率的に機能するよう取り組んでまいりたいと考えております。続きまして、建設業界に関する状況でございます。建設業の皆様方には、地域のインフラ整備やメンテナンスの担い手であると同時に、地域経済や雇用を支え、なおかつ災害時には最前線で地域社会の安全安心の確保を担うなど、大きな役割を果たしていただいております。現時点におけます建設業界の課題にいたしましては、長時間労働が常態化する中で、労働者の急激な高齢化と若者離れが進展し、将来の担い手を確保することが難しいとの指摘もございまして、今後も地域の守り手として活躍していただけるような環境の整備が求められております。そのような中、2024年4月からは、担い手新法と申しまして、これは建設業法あるいは公共事業の入札および契約の適正化の促進に関する法律、それから公共工物品質確保の促進に関する法律などに基きまして、働き方改革であったり、生産性の向上、持続可能な事業環境の確保、そしてまた工事の品質の確保に向けた対策が順次進められるとお聞きしております。そのような中、まず工期の設定につきましては工事あるいは業務委託の早期発注に心がけるとともに、大規模工事等につきましては、債務負担行為の設定などにより、現場に過度の負担をかけないよう配慮するとともに、週休二日制の導入についても適切に対応するよう求められております。また、工事費の積算に関しましても、労務費や機械経

令和5年第421回信濃町議会定例会 12月会議 会議録(2日目)

費、共通仮設費、現場管理費等に補正率を乗じるなど、労働者の賃金を適正に確保することとされておりますので、国の基準に準じて順次適応してまいりたいと考えております。また、これらに伴いまして、例えば信越病院とか、し尿処理施設の工期が少し伸びるのではないかと、あるいは工事費が上がってしまうのではないかとというご懸念もあろうかと思いますが、2024年に限ったことではございませんが、それぞれのルールを適正に汲み取りまして、対応してまいりたいと思っております。ご心配な点もあろうかと思いますが、誠実に対応してまいりたいと考えております。

●議長（佐藤武雄） 酒井議員。

◆7番（酒井 聡） 運輸ですとか、建設については今町長の答弁にあったかと思うのですが、もう一つの分野であります労働時間の変動によります、人材不足と同様に保育、介護、看護の働き手不足、これは2024年問題に限った話ではないのですが、それも大変懸念されております。2024年問題という括りの中では、おそらく看護の現場にも関わる問題であろうと思うのですが、これら国家資格を必要とする業種の皆さんは、慢性的な働き不足というものに何年か苛まれているという状態にあります。特に保育にあたって、実際には本年度の野尻保育園の件もありますが、中長期的な目線ではどこの保育園保育所でも起こり得ることであっただろうと思えます。また介護につきましても、介護というのは直接町が関与するものではありませんが、今後10年ほどは施設のお世話になる方が増える一方で、介護にあたる人材の不足というのが非常に危惧されております。試算ではありますが、2025年から介護人材の不足をピークというのは適切ではないかもしれませんが、不足の本当の最たるものの状態に入り、2045年頃にピークアウトすると、これは別に働く人が充足するのではなく、介護のお世話になる人が減っていく、ということでピークアウトが起きるわけですが、これは地域福祉計画にも少なからず影響しようと思っております。保育、介護、看護、各分野の人材不足に対する見解と対応策について伺いたいのですが、時間が限られておりましたので、手短かにお願いできればと思います。まず、保育の方からお願いできますか。

●議長（佐藤武雄） 佐藤教育長。

■教育長（佐藤尚登） ご質問のうちの保育の部分についてお答えします。2018年に改定された保育所保育指針の中で、保育園は幼児教育を行う施設だと定義付けられました。そのことに見られるように、保育士というのは日本の未来を背負うことになる大切な子どもたちの育ちを支える、社会にとって必要不可欠な重要な職種だという認識であります。議員ご指摘のとおり、全国的に見ると、慢性的に保育士不足に陥っている状況です。その背景には、保育士資格を取得しながらも保育士として就職しない、または保育士として就職しても結婚出産を機に離職し、その後復職しないケースが多い、ということをお聞きしています。県では福祉人材センターへの登録制度を設けるなど、保育士確保に

令和5年第421回信濃町議会定例会 12月会議 会議録(2日目)

向けての取り組みを行っていますので、町としても情報を共有し、連携していくつもりです。また、教育委員会としましては、保育士さんたちが職務を遂行することに喜びや希望を見出し、より専門性を高めていくために必要な職員研修を、県や中枢連携都市圏等と協力して取り組んで、人材確保に向けて努力したいと考えています。一方、人口が減少するという、未だかつて経験したことのない局面に至った現在の日本において、募集すれば人を得られるという状況ではなくなっているという冷厳な事実を考えれば、確保できる人材でいかにシステムを運営していくかという視点も重要だと考えているところです。保育に関しては以上です。

●議長（佐藤武雄） 佐藤住民福祉課長。

■住民福祉課長（佐藤宏幸） 介護分野における働き手不足についてですが、ご存知のように全国的な傾向で、当町においても大きな課題であると認識しております。現在、国のほうでも、介護報酬の改定に向けて、今、議論がされているところでございますけれども、こういった介護従事者の金銭面での処遇改善のほか、持続可能な制度維持を図るために、ICT等の活用そういった導入に伴う情報提供などにより現場の労力軽減に資する支援を行っていくことで、少しでも人材の確保、もしくは効率化のほうに協力できればと思っております。以上です。

●議長（佐藤武雄） 丸山病院事務長。

■病院事務長（丸山茂幸） 現在、看護の分野につきましては病院の状況としては、先ほどから申し上げているように、人材不足、人口減少の働き手不足の中で、医療を支える医師、看護師の働き方改革が国のほうでも示されている中、現場では一層厳しい状況になっております。新病院につきましては、介護分野の部分につきましては民間に任せたいと思っております。現状の病院の介護の、一般病床も含めて全体ですが、看護師の確保につきましては民間の支援業者を活用しながら看護師の基準等を目指して今、進めている状況でございます。以上です。

●議長（佐藤武雄） 酒井議員。

◆7番（酒井 聡） 先ほどの教育長の答弁が、的を射ているかなと思います。待っているだけではだめなのだろうな、資格を持っている方、学校を卒業されて募集をかけました、それを待っているだけではもうだめなのではないかなと、これから先は、と私も感じております。町の現状を考えますと、看護師の希望者に対しては補助金の制度が出ておりますが、あと一般的な大学の奨学金ぐらいしかと言うと語弊があるかもしれませんが、そういったところも今度メスを入れて、自分たちで、自分たちの保育、それと看護に携わる人を自分たち自ら作っていかねばいけないという状況も、これから出てこよう

令和5年第421回信濃町議会定例会 12月会議 会議録(2日目)

かなと思います。時間が手短に、私も言っておりますが、そういった時代にこれから入っていくのではないかと思います、町長どうですか。そういった考え方はお持ちですか。

●議長（佐藤武雄） 鈴木町長。

■町長（鈴木文雄） 人の確保につきましては様々な方法があるのだと思います。ただいま、酒井議員にご指摘いただいた点も、町としてどこまで関与ができるのが良いのかというようなことについて関係の部署と相談してまいりたいと思います。

●議長（佐藤武雄） 酒井議員。

◆7番（酒井 聡） もう1つ、移住政策について伺おうかと思ったのですが、かなり時間を使ってしまいましたので、まとめますが、人口が減少するというのは、これは避けられないことであって、その中でいろいろな分野で働き手を確保するというのはそれぞれの皆さんの意思や自覚のもとで仕事についていただくというのは大前提ですが、なくてはいけない仕事というのが世の中にあるということ、やはり教育なのでしょうか、そういうことも、働き手を作るということで力を入れて取り組んでいただきたいと思います。時間が終わりました。残された質問は次回に回したいと思いますので、これで私の質問を終わりにします。

●議長（佐藤武雄） 以上で酒井聡議員の一般質問を終わります。この際、10時55分まで休憩といたします。

（終了 午前10時43分）